



東邦大学

いのち
生命の科学で未来をつなぐ

コミュニティに対する関連研究

金岡 晃(東邦大学)

質的調査

UWS2020チュートリアル2

「レベルアップ!ユーザスタディ」質的調査 資料より

「質的研究は「そこにある」世界(実験室のような特別に作られた研究状況ではなく)にアプローチし、「内側から」社会現象を理解し、記述し、時には説明することを意図する」

ウヴェ・フリック、鈴木聡志(訳)「質的研究のデザイン」p.ii

いくつかのポイント

- 多くの学問領域で採用:社会学、文化人類学、心理学、健康科学…
- 多くのアプローチ:主観的観点、社会状況の形成、隠れた構造の分析



ユーザブルセキュリティの文脈で利用されるのは一部分

データ収集方法

半構造化インタビュー

- 目的に合わせた大まかな質問を用意
- 実験参加者の回答に応じて掘り下げていく

Usable Security/Privacy研究で
(特に最近)採用事例が多い

フォーカスグループ

- 実験参加者が複数いる中であるテーマについて話合う

Usable Security/Privacy研究で
だんだんと事例が出てきている

エスノグラフィー

- コミュニティの内側に入る(参与観察)
- 長期間の観察
- 実験実施者は一員として活動しコミュニティメンバーとインタラクションを取る

エスノグラフィック研究（エスノグラフィー）

質的研究手法の一つ

- 人類学的研究手法
- コミュニティの有形のモノ、社会的関係、信念、価値観などに関する情報の収集
- 収集手法としていくつか特徴がある：**参与観察法**
 - コミュニティの内側に入る
 - 長期間の観察
 - 一員として活動しコミュニティメンバーとインタラクションを取りながら観察
- 分析は多元的：観察、インタビュー、文献調査など

エスノグラフィーの利点

- 研究課題の明確化
- 想定されていなかった結果の説明
- コミュニティを知る
- 社会的プロセスを詳細に記録
- 場面に適切な尺度を作る

事例紹介: Palomboら@SOUPS2020

An Ethnographic Understanding of Software (In)Security and a Co-Creation Model to Improve Secure Software Development

Hernan Palombo, Armin Ziaie Tabari, Daniel Lende, Jay Ligatti, and Xinming Ou, University of South Florida

論文概要(1)

- 質的研究手法の訓練を受けたPhD学生2名がソフトウェア会社に計1年半参加
 - 訓練:第3著者が人類学者
 - 週3日で週20時間
 - 1人が12か月、1人が6か月
 - 会社からは給与をもらっていない。会社からは研究への寄与(金銭、現物)
- 参与観察中の活動
 - コーディングや会議などの日常業務
 - 過去のデータ(コードリポジトリやチケットシステムの記録)調査
 - 開発ソフトウェアのペンテスト
- フィールドノートの記載
 - ソフトウェアで発見されたセキュリティ問題
 - 開発者や開発プロセスに関する他の従業員との日常的なやりとり
- フィールドノートの種類:2種類
 - 記述的(Descriptive)なノート:個人的な判断や意見を避ける
 - 洞察力のある(Insightful)ノート:”ah-ha”な瞬間をとらえて反射的に観察者が分析

論文概要(2):結果

ソフトウェアのセキュリティやその欠如は、ソフトウェアの欠陥や開発者の知識や努力だけが原因で起こるのではなく、技術と人間のネットワークから生まれてくる

セキュリティの専門家が、開発プロセスで相互作用する技術的要因と人間的要因からセキュリティ(インセキュリティ)がどのように出てくる(Emerge)のかを理解することで、セキュリティ専門家と開発者のギャップを埋めることができる

データ収集方法

半構造化インタビュー

- 目的に合わせた大まかな質問を用意
- 実験参加者の回答に応じて掘り下げていく

フォーカスグループ

- 実験参加者が複数いる中であるテーマについて話合う

エスノグラフィー

- コミュニティの内側に入る(参与観察)
- 長期間の観察
- 実験実施者は一員として活動しコミュニティメンバーとインタラクションを取る

今回のケースはこちらで評価するのが良かったのでは。

...

ということを、著者(になりうる研究者)のみならず査読者、PC側も気づくべきだった